

# 高等学校学習指導要領に準拠したCan-Doリストの開発

—高等学校英語教育におけるCan-Doリストの開発—

多賀 徹哉 松浦 伸和 小野 章 池岡 慎  
川野 泰崇 千菊 基司 林 典代 久松 功周  
松島 浩司 幸 建志

## 1. はじめに

### 1. 1. 研究の背景

学力保障の観点から、世界中で評価の重要性が増している。その流れを受けて、わが国にも「目標に準拠した評価」が導入された。学習指導要領に示された目標に準拠した評価規準が示され、それを基に学力を評価することになった。しかし、必ずしも十分に実施されているとは限らない。特に高等学校でその傾向がみられる。その一因として、「基準」が示されていないことが指摘できる。観点ごとに、具体的は到達レベルを学校ごとに設定することになっているが、その認識すら稀薄であることが多い。

そのような実情を背景として、全国の学校で、具体的な到達目標を「Can-Doリスト」の形で作成することになった。そのため、研修会の開催など各地で対応策が取られているが、作成されたリストにも問題点がみられる。もっとも多いのは、学校ごとに生徒の実態に応じたものを作成すべきであるが、業者のものや海外で作成されたものを使っていることである。その場合、学習指導要領や国が示している評価規準に沿って作成されていないという問題を含んでいる。

### 1. 2. 研究の目的

本研究では当校英語科でのCan-Doリスト作りの作成手順を示すことで、各高等学校での高等学校学習指導要領（以下学習指導要領）に基づいたCan-Doリスト作りの一助となることを目的としている。

既にリストを作成し、活用されている高等学校がある一方で、作成を始めたばかりの高等学校もある。既に作成されたCan-Doリストの中には海外で作られたリストを参考にしただけのものや、独自の評価項目を設定して作成したものなどもあり、学習指導要領から

逸脱していることが窺える。また、公表されているリストを見ただけでは、「何をもとに」、「どのように作成しているのか」がわかりにくい。

本研究では「何をもとに」を明らかにする。さらに「どのように作成するのか」に関しても、4技能のうちの「書くこと」を例にリスト作成の手順を提示することで、これからリストを作成する場合の参考となるものを示す。

### 1. 3. Can-Doリスト作成の必要性

Can-Doリストは生徒が身につける能力を各学校が明確化し、指導と評価の改善に活用するためにある。各学校のカリキュラムや生徒の実態を踏まえた上で、育成したい能力や生徒像、学習指導要領に基づいた指導と評価の方法を教員が共有する体制を構築することにある。

### 1. 4. Can-Doリスト作成のリソース

文部科学省初等中等教育局が示す『各中・高等学校の外国語教育における「Can-Do」の形での学習目標設定のための手引き』（以下『手引き』）に明記されているように、Can-Doリストは学習指導要領に従って作成されなくてはならない。海外の歴史と実績のあるCan-Doリストを参考に学校現場の実情に合うように手を加える前に、学習指導要領ではどのような能力育成を目指しているのかを読み取る必要がある。

本研究では、学習指導要領が「どのような能力育成を目指すのか」を明らかにし、Can-Doリスト設定の手順を示していく。

## 2. Can-Doリスト作成の手順

### 2. 1. リストの種類の確認事項

高等学校では学習指導要領に従って、「コミュニケーション英語Ⅰ」をはじめ、いくつかの科目がある。Can-Doリストは、各校の教育課程で決められている英語の科目を通じて設定する。

観点別学習状況の評価における「外国語表現の能力」と「外国語理解の能力」についてCan-Doリストを設定する。学習指導要領ではその「解説」が示しているように複数の科目があっても4つの領域の技能について説明がされている。従って、Can-Doリストも「読むこと」、「聞くこと」、「話すこと」、「書くこと」の4種類を作成しなくてはならない。

また、リストの「能力記述文」は「あまり細かくすると年間指導計画等との関連づけが難しくなる。細かな数値的目安を含めるよりも、学習指導要領で示されている各科目の内容における表現の程度にしておく。」と『手引き』には示されている。

### 2. 2. リストの内容の設定

「〇〇ができる」という一つ一つの記述やレベルは各学校の生徒実態に応じて設定するのであるが、この記述を作っていく際の規準になるものが必要となる。この規準を明らかにすることで、「〇〇ができる」という達成目標を設定し、記述していくことができる。

次にその規準を設定するための手順を示す。なお、リストの記述文設定のための行程と区別するために、この規準設定の行程を仮に「作業」と呼ぶことにする。

### 2. 3. 作業

#### 2. 3. 1. 短冊の作成

本研究は『高等学校学習指導要領解説』のうち、当校の教育課程にある「コミュニケーション英語」と「英語表現」を基に規準を作ることにした。

まず、『学習指導要領解説』に記述されている文言の中で「評価できるもの」、すなわち点数をつけることができるものを短冊に書き出す（写真参照）。

さらに「理解」（領域）、「読むこと」（技能）など分類をして一覧表化する（表5）。

例えば、『指導要領解説』の「コミュニケーション英語Ⅰ」の説明に「情報や考えなどを的確に理解する」という記述がある。これは領域としては「外国語理解の能力」であり、「技能」としては「読むこと」と「聞くこと」である。

#### 2. 3. 2. 短冊の分類

2. 3. 1. で作成した短冊を「技能」別に並べる。

従って「コミュニケーション英語Ⅰ」と「コミュニケーション英語Ⅱ」にある「理解」、「読むこと」、「情報や考えなどを的確に理解する」が同じグループに入るのである（表3）。

#### 2. 3. 3. 短冊の絞り込み

「技能」ごとに科目を超えて集まった短冊をその内容ごとに3～5程度の大きなカテゴリーにまとめる。

#### 2. 3. 4. 各技能におけるカテゴリーの設定

本研究では、「書くこと」についてのCan-Doリストを作るのであるが、2. 3. 2. の作業でまとめたカテゴリーは、「言語」、「文章構成」、「論理展開」である。これを表4のように整理して仮Can-Doリストとする。

このカテゴリーを全国で共通のものとしてCan-Doリストの設定を行うことを本研究で提案する。共通の規準のもとに各校がリストを作れば、「できること」の大小は学校によって違っても、全国で同じ方向に向かって指導していることになる。

### 2. 4. レベルの設定と内容の設定（表4）

表4の網掛けの部分各校で取り組むべきところである。即ち、各カテゴリー規準におけるレベルごとのCan-Doを設定して記述するのである。

この研究ではレベルを3段階としたが、学校によっては5～6段階にした方が生徒の指導に有益と考えるところもあろう。レベルについては学年進行に従って行うところが一般的である。最高レベルをどう設定するかによって下位のレベルの内容が見えてくる。

#### 2. 4. 1. 試行テスト

「書くこと」について、高1～高3の生徒120名に同じ課題を与えて作文をさせた。作文の課題は、卒業時点で、図表から読み取ることができる客観的事実を取り入れながら意見を論じることができることを想定して作成した。

#### 2. 3. 2. レベルの設定と記述文の設定

次に生徒が書いたものを、学年別のカテゴリーごとに書いているものからグループ分けし、それぞれどのような特徴があるのかを分析した。その特徴を基に、それぞれのレベルにおける「〇〇ができる」という設定を行う。例えば、高1では「綴りや構文の間違いが目立つ」であるとか、あまりできていない作文（高1～高3を通じて）では「綴りや構文の間違いが目立つ」、「読み手が努力しないと書いてあることが読み取れない」などの特徴があった。

そうした特徴をもとにレベルと記述文を設定していく。レベル1の能力としては、ただし、「間違いが多い」特徴をもとに、多少の間違いがあっても相手に伝えたいことが理解されることをその達成目標とする。記述文の表現としては、「できるようになる」という書き方をする。本研究ではレベル1の記述文として「読み手に概ね伝わる文を書くことができる。」と言うものを設定した。なお、レベルについては3. 2. 1. で説明する。

### 3. Can-Doリストと解説

#### 3. 1. Can-Doの設定

2. 3. 4. の作業と2. 4. 1. の試行テストでできたレベルと内容を表5のようにしたものが「書くこと」のCan-Doリスト設定直前の状態である。

#### 3. 2. 今回作成のリストの解説

表5についての解説は以下の通りである。

##### 3. 2. 1. レベルが示す能力

レベル3が高等学校卒業時に達成できている目標である。また、レベル1は高校1年生終了時に達成できている目標となる。

##### 3. 2. 2. カテゴリー

「言語」

「書くこと」における表現に必要な語句や構文等、文法に関する部分である。学習指導要領にあるように「相手に正確に」伝えるためには語句や構文が綴りも含めて正しく書かれていなければならない。『手引き』においても文法的な要素をリストに入れることを否定していない。

「文章構成」

パラグラフ内の文と文との関係が「読み手」にわかりやすく伝わるように書けているかを目標とする。接続詞等が正しく使える、文の流れがわかり易い順に書けることが目標である。

「論理展開」

パラグラフ間の関係が、テーマとなる主張や情報を伝えるために効果的なつながりを持つように書けることが目標となる。

### 3. 2. 3. 各記述の解説

規準 レベル	言語
Level 3	□読み手に効果的に伝わる文を書くことができる。
	(解説) 語句や構文等にほとんど誤りがない。また、様々な構文を自在に使うことができる。
Level 2	□読み手に明確に伝わる文を書くことができる。
	(解説) 語句や構文の間違いが少なく、読み手に伝わりやすい英文が書ける。
Level 1	□読み手に概ね伝わる文を書くことができる。
	(解説) 語句や構文に誤りが目立つが、読み手が多少の推測を交えれば理解できる英文が書ける。

規準 レベル	文章構成
Level 3	□段落間のつながりを明確にした文章を書くことができる。
	□説明や描写が相手に効果的に伝わるように工夫しながら書くことができる。
Level 2	(解説) 接続詞や具体例などを正しく用いて、伝えたいこと効果的に伝えるように書けている。
	□個々の文のつながりを明確にして段落を構成することができる。
Level 1	(解説) 段落の中で一つ一つの英文のつながりがわかるように書けている。
	□主題に関連した英文で構成した、内容的にまとまりのある文章を書くことができる。
	(解説) テーマに沿って伝える内容が書けている。

規準 レベル	論理展開
Level 3	□書く目的や書く相手に応じて書くことができる。
	□与えられたテーマについて、客観的事実を基に、自分なりの価値基準で分析し、説得力のある文章を書くことができる。

	(解説) 書く相手を想定して英文が書ける。また、客観的なデータや反論も考察しながら自分の主張を書くことができる。
Level 2	□与えられたテーマについて、自分の価値基準で分析し、自分なりの結論や意見を書くことができる。 □議論の論点と意見の根拠を明確に書くことができる。
	(解説) 自分が伝えたいことについて自分なりの具体例などを挙げながら書くことができる。
Level 1	□事実について解説したり、情報を伝えることができる。 □情報の順序（時系列など）を変えるなどして、読み手に分かり易い文章を書ける。
	(解説) 伝える内容は書けている。内容によっては時間軸や出来事の順番に沿うだけでなく、書き方に工夫をすることができる。

### 3. 3. 検証テストとその分析

今回のテストは、できあがったCan-Doリストが当校の生徒の実態に合ったものであるかを検証することが目的であった。各校の現場ではいくつかのテストを実施して評価をし、その評価をもとに指導する。高等学校の英語学習の1年目後半に当たる1年生と卒業段階に当たる3年生を対象に検証テストの分析を行う。

ここでは、最終的なCan-Doリストに沿うよりも、その手前の表5に沿って説明する方がわかりやすいだろう。なお、%はその学年における記述文の能力を達成している生徒の割合である。

#### 「言語」

1年生はレベル1「読み手に効果的に伝わる文を書くことができる。」部分は100%達成できていたが、それ以上のレベルには達していなかった。2年生はレベル2「読み手に明確に伝わる文を書くことができる。」が37.0%、レベル3「読み手に効果的に伝わる文を書くことができる。」が14.0%であり、学年が上がるにつれて向上していくことがわかる。

#### 「文章構成」

1年生はレベル1「主題に関連した英文で構成した、内容的にまとまりのある文章を書くことができる。」は84.2%が達成できていた。また、レベル2「個々の文のつながりを明確にして段落を構成することができ

る。」が21.1%、レベル3「説明や描写が相手に効果的に伝わるように工夫しながら書くことができる。」が5.3%と、レベル3のものもあった。

これに対し、3年生はレベル2「個々の文のつながりを明確にして段落を構成することができる。」が14.0%で、それ以上はなかった。レベル2で1年生が3年生よりも多く達成している理由は、1年生が「英語表現I」において1学期の段階から「書く」訓練に積極的に取り組んだ結果によるものと考えられる。

#### 「論理展開」

1年生はレベル2「与えられたテーマについて自分の価値基準で分析し、自分なりの結論や意見を書くことができる。」が94.7%、レベル3「与えられたテーマについて客観的事実を基に自分なりの価値基準で分析し、説得力のある文章を書くことができる。」が31.6%に達している。これも「文章構成」と同様に、1年生が履修している科目での学習の成果と考えられる。3年生はレベル3「与えられたテーマについて、観的事実を基に自分なりの価値基準で分析し、説得力のある文章を書くことができる。」が55.6%となっており、3年生では自分の主張に対する反論も考察して展開することができている。

以上のことから今回のCan-Doリストが生徒の実態を踏まえたものに近いものであると言える。

### 4. 今後の課題

新教育課程の「コミュニケーション英語」,「英語表現」での指導にあわせてCan-Doリストを改善していかなければならない。

### 5. おわりに

Can-Doリストは各学校で作成し、活用していかなければならないものである。本研究がリスト作りに苦慮している現場の先生方の参考になれば幸いである。

### 引用・参考文献

- 1) 『高等学校学習指導要領』(平成21年3月) 文部科学省
- 2) 『高等学校学習指導要領解説』(平成21年3月) 文部科学省
- 3) 『各中・高等学校の外国語教育における「Can-Do」の形での学習到達目標設定のための手引き』(平成25年3月) 文部科学省初等中等教育局
- 4) Keith Morrow (2013) 『ヨーロッパ言語共通参照枠 (CEFR) から学ぶ英語教育』 研究社

- 5) 大井恭子他 (2008) 『パラグラフ・ライティング指導入門』 大修館書店  
 6) 山岡憲史他 (2011) 『English CAN-DO Lists』 立命館一貫教育推進本部教育研究・研修センターほか

- 公開されている各高等学校のCan-Doリスト  
 7) William Grabe & Robert B. Kaplan (1996) Theory & Practice Of Writing, Longman

表1 英語科Can-Do List (書くこと)

	Grade	Can-Do
Elementary ↓	Level 1	<input type="checkbox"/> 読み手に概ね伝わる文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 主題に関連した英文で構成した、内容的にまとまりのある文章を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 事実について解説したり、情報を伝えることができる。 <input type="checkbox"/> 情報の順序(時系列など)を変えるなどして、読み手に分かり易い文章を書くことができる。
	Level 2	<input type="checkbox"/> 読み手に明確に伝わる文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 個々の文のつながりを明確にして段落を構成することができる。 <input type="checkbox"/> 与えられたテーマについて自分の価値基準で分析し、自分なりの結論や意見を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 議論の論点と意見の根拠を明確に書くことができる。
Advanced ↓	Level 3	<input type="checkbox"/> 読み手に効果的に伝わる文を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 段落間のつながりを明確にした文章を書くことができる。 <input type="checkbox"/> 説明や描写が相手に効果的に伝わるように工夫しながら書くことができる。 <input type="checkbox"/> 書く目的や書く相手に応じて書くことができる。 <input type="checkbox"/> 与えられたテーマについて、客観的事実を踏まえながら、自分なりの価値基準で分析し、説得力のある文章を書くことができる。

写真 短冊の作成と分類の一部



表2 短冊の作成（指導要領解説が示す能力一覧）の一部「コミュニケーション英語Ⅰ」

No.	観点	技能	記述	ページ
1	理解	読む	事実や意見などを多様な観点から考察する	19
2	理解	聞く	事実や意見などを多様な観点から考察する	19
3	表現	話す	論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える	19
4	表現	書く	論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える	19
5	理解	読む	聞いたり読んだりして得た事実や意見などを理解する	20
6	理解	聞く	聞いたり読んだりして得た事実や意見などを理解する	20
7	理解	読む	理解したことを他の事実や意見もしくは自分の意見と比較する	20
8	理解	聞く	理解したことを他の事実や意見もしくは自分の意見と比較する	20
9	理解	読む	理解したことを自分の知識や経験に基づいて分析する	20
10	理解	聞く	理解したことを自分の知識や経験に基づいて分析する	20
.....				
127	表現	書く	考えの流れを明確にするためにフローチャートを利用する	23
128	表現	話す	学習した情報や考えを伝える	23
129	表現	書く	学習した情報や考えを伝える	23
130	表現	話す	自分の考えや気持ちを伝える	23
131	表現	書く	自分の考えや気持ちを伝える	23
132	理解	聞く	聞くことを通して、これから話すことや書くことの内容を入手する	23
133	理解	読む	聞くことを通して、これから話すことや書くことの内容を入手する	23
134	表現	話す	最初にメモをとってから発表する	23
135	表現	書く	ある話題について話し合いをしてから、それについて文章を書く	23

表3 短冊の分類（書くこと）の一部

科目	No.	観点	技能	記述
EE-I	129	表現	書く	学習した情報や考えを伝える
EE-I	131	表現	書く	自分の考えや気持ちを伝える
EE-I	71	表現	書く	記録を行うために、適した書き方を選択する
EE-I	111	理解	書く	発表の仕方や発表のために必要な表現などを学習する
EE-I	81	表現	書く	分かりやすく描写する
EE-I	58	表現	書く	相手の行動を促すための表現を身に付け、実際に活用する
EC-I	13	表現	書く	聞いた内容について、賛成や反対などの意見を述べる。
EE-I	56	表現	書く	気持ちを伝えるための表現を身に付け、実際に活用する
EC-II	90	表現	書く	誤解を招くような表現の曖昧さがないように書く。
EC-III	119	表現	書く	誤解を招くような表現の曖昧さがなく書く。
EE-I	54	表現	書く	情報を伝えるための表現を身に付け、実際に活用する
EE-I	79	表現	書く	説明的な文章を書く場合に、物事の変化を正しく読み手に伝える
EE-I	78	表現	書く	説明的な文章を書く場合に、物事の様子を正しく読み手に伝える
EC-II	100	表現	書く	どのような表現を用いれば相手に効果的に伝わるのか考えている。
EC-III	129	表現	書く	どのような表現を用いれば相手に効果的に伝わるのか考えている。
EC-III	117	表現	書く	描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように書く。

EE：英語表現 EC：コミュニケーション英語

表4 仮Can-Doリスト

規準 レベル	言 語	文章構成	論理展開
Level 3	□読み手に効果的に伝わる文を書くことができる。	□段落間のつながりを明確にした文章を書くことができる。 □説明や描写が相手に効果的に伝わるように工夫しながら書くことができる。	□書く目的や書く相手に応じて書くことができる。 □与えられたテーマについて、客観的事実を基に、自分なりの価値基準で分析し、説得力のある文章を書くことができる。
Level 2	□読み手に明確に伝わる文を書くことができる。	□個々の文のつながりを明確にして段落を構成することができる。	□与えられたテーマについて、自分の価値基準で分析し、自分なりの結論や意見を書くことができる。 □議論の論点と意見の根拠を明確に書くことができる。
Level 1	□読み手に概ね伝わる文を書くことができる。	□主題に関連した英文で構成した、内容的にまとまりのある文章を書くことができる。	□事実について解説したり、情報を伝えることができる。 □情報の順序（時系列など）を変えるなどして、読み手に分かり易い文章を書くことができる。

表5 本研究におけるCan-Do記述（書くこと）

規準 レベル	言 語	文章構成	論理展開
Level 3	□読み手に効果的に伝わる文を書くことができる。	□段落間のつながりを明確にした文章を書くことができる。 □説明や描写が相手に効果的に伝わるように工夫しながら書くことができる。	□書く目的や書く相手に応じて書くことができる。 □与えられたテーマについて、客観的事実を基に、自分なりの価値基準で分析し、説得力のある文章を書くことができる。
Level 2	□読み手に明確に伝わる文を書くことができる。	□個々の文のつながりを明確にして段落を構成することができる。	□与えられたテーマについて、自分の価値基準で分析し、自分なりの結論や意見を書くことができる。 □議論の論点と意見の根拠を明確に書くことができる。
Level 1	□読み手に概ね伝わる文を書くことができる。	□主題に関連した英文で構成した、内容的にまとまりのある文章を書くことができる。	□事実について解説したり、情報を伝えることができる。 □情報の順序（時系列など）を変えるなどして、読み手に分かり易い文章を書くことができる。

資料 試行テスト問題

設問 次のテーマについてあなたの考えを100語以上の英語で書きなさい。コンマやピリオドは語数に含めません。  
 解答欄の ( ) に語数を記入しなさい。

問題 海外の高校生の友人からメールが届きました。その中に次のような質問がありました。このテーマについてあなたの考えを100語以上の英語で書きなさい。コンマやピリオドは語数に含めません。解答欄の ( ) に語数を記入しなさい。

**"Are mobile phones necessary for high school students?"**

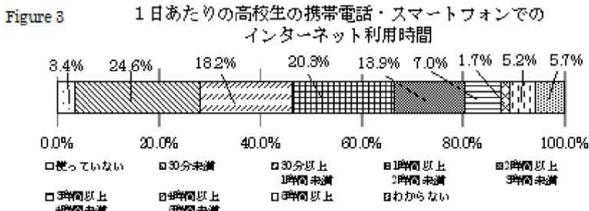
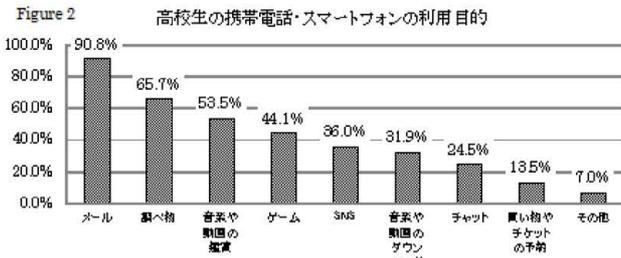
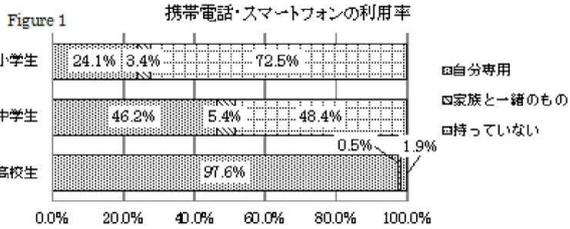


Figure 4-1 高校生のインターネット上の経験  
 インターネット上のトラブルに遭ったことがある

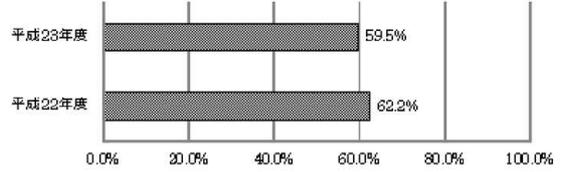
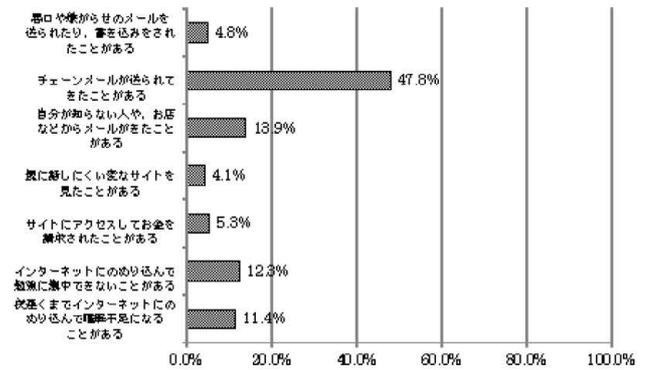


Figure 4-2 トラブルの具体例



内閣府「平成23年度版 子ども被害白書」